R8年農事メモ(第5号)

令和８年７月３日
白山石川営農推進協議会
石川県農業共済
白山農業協同組合

白山石川グレードアップ米づくり運動実施中！
夏季の高温×生育過剰！　高温対策技術の徹底必須！

今回のポイント！
- □ 中干し後から出穂までは、**約１ヶ月間の飽水管理**
- □ 出穂から刈取り直前までは、
  ① **乾かさない**　② **ずっと溜めない**　③ **すぐ落とさない**
- □ 水稲の生育ステージにあわせた適期防除の実施

水稲の生育状況（６月２３日時点）

※今後の気象経過により出穂期が前後する可能性があります。

・茎数は、すべての品種で平年・前年よりやや多い～多くなっている。
・ゆめみづほ、コシヒカリともに幼穂が確認されていることから、飽水管理へ移行する。

【出穂期の見込み（５月上旬田植え）】

品種名	出穂期（平坦部）	出穂期（山間部）
ゆめみづほ	**7月13～17日**	**7月20日前後**
コシヒカリ	**7月23～27日**	**7月29日前後**

1　肥培管理　～分施体系の穂肥（コシヒカリ）～

◎施用基準（分施体系）　※幼穂長を確認し、稲の姿に応じて的確に施用すること。

「BBLP有機０６０号」

施用時期（幼穂長）	施用量(kg/10a)	葉色
出穂１８日前　(10～15㎜)	**３０**	**3.5**

・葉色が基準程度で葉身は直立　・・・基準どおり施用。
・葉色がやや濃いが葉身は直立　・・・基準より５日遅らせる。
・**葉色が濃く葉身の乱れが目立つ　・・・基準より５日遅らせ、２割減肥する。**

生育に応じた対応方法	生育が早い、生育旺盛	生育が遅い、生育不足
幼穂形成期	草丈が長く葉色濃い場合は、穂肥を遅らせ減肥する。	生育が遅れているため、穂肥や基幹防除が早すぎないよう注意する。

2　肥培管理　～一発体系の上乗せ追肥～

◎高温登熟が予想されるため、出穂前の葉色が淡い場合は、基肥一発肥料であっても上乗せ追肥を施用し、高温登熟による白未熟粒の発生を防ぎましょう。

「BBとれるぞう」

施用時期（葉耳間長）	施用量(kg/10a)	葉色
出穂７日前　(±０～＋５ｃｍ)	**７～１０**	**ゆめみづほ：5未満 コシヒカリ：4.5未満**

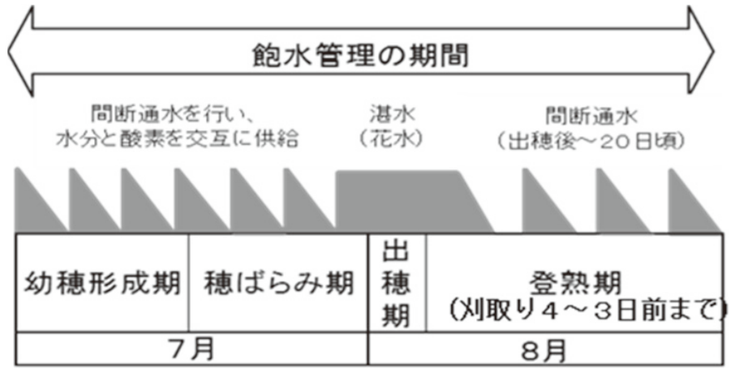
・ただし基肥に「早生一発くんＤＸ２８」「コシ一発くんＤＸ２４」を施用した場合は、上乗せ追肥は原則不要。
・昨年までの経過（秋落ち、大豆跡による基肥減肥など）や、今後の登熟期間の気象を踏まえて、実施を判断する。

当面の栽培管理

3　水管理　～飽水管理の徹底～

・中干し終了後は間断通水を実施し、徐々に飽水管理へ移りましょう。
　急激な湛水は、根の酸素不足による根腐れや下位葉の枯れ上がりを生じさせるので、行わないでください。
・出穂前後は花水として湛水する。※溜めっぱなしを避け、水の入れ替えに努めましょう。
・飽水管理は登熟の後期まで実施し、稲体の活力維持に努めましょう。

ここにも注意を
- **減数分裂期に低温(17℃以下)が予想される場合、深水にし、幼穂を保温しましょう。**
- **登熟期に高温が続く場合は、夜間通水を行い地温を下げるように努めましょう。**
- **強風やフェーンが予想される場合、あらかじめ十分に入水し、高温障害の発生を防止！**



【北陸地方における向こう1か月の天候の見通し】

平均気温	降水量	日照時間
平年より高い見込み	**平年並み～多い見込み**	**平年並み～少ない見込み**

・向こう１か月の気温は高く、特に期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

4　倒伏軽減剤

薬剤名	使用量 10a当り	散布適期	本剤の使用回数	注意事項
スマレクト粒剤	2～3 kg	出穂20日～7日前	1回	湛水状態でムラなく均一に散布し、散布後５日間は湛水を保つ。散布後７日間は強制落水しない。

病害虫防除は適期を逃さず実施！

病害虫発生予報第3号（６月１１日発表、農業試験場病害虫防除室）
紋 枯 病：多　前年発生ほ場・茎数の多いほ場で多発する可能性があります。
斑点米カメムシ類：やや多
7月上旬仕上げ除草＆適期防除の徹底で、斑点米を減らしましょう！

5　令和８年度　白山石川地区雑草地カメムシ調査結果

６月下旬調査　42地点108カ所　　※平年値：過去10カ年の平均値

年次	シラホシカメムシ類	飛翔性カメムシ類				合　計
	トゲシラホシカメムシ	クモヘリカメムシ	ホソハリカメムシ	カスミカメ類		
				アカスジカスミカメ	アカヒゲホソミドリカスミカメ	
R　8	**0.04**	**0.94**	**1.00**	**11.81**	**13.80**	**27.58**
R　7	0.30	0.22	0.28	6.84	8.72	16.38
対平年比	25%	235%	833%	358%	363%	372%

6　病害虫防除　～随時防除～

稲こうじ病
紋枯病
常発地や前年に発生した地域は、防除を行いましょう。
特に、ゆめみづほは紋枯病の耐病性が低いため、注意が必要です。

対象病害	薬剤名	使用量10a当り	散布適期	本剤の使用回数	注　意　事　項
稲こうじ病	Ｚボルドー粉剤ＤＬ	3～4 kg	出穂15～10日前まで	―	使用時期：出穂１０日前まで（遅れると薬害が発生する）
稲こうじ病・紋枯病	モンガリット粒剤	3～4 kg	出穂3～2週間前	２回以内	①水深3cm程度で、散布後４～５日は湛水を保つ ②使用時期：収穫３０日前まで
紋枯病他	バリダシン液剤５	60～150L(1000倍)	出穂10日前まで	５回以内	使用時期：収穫１４日前まで
	バリダシンエアー	800ml（８倍）			

7　病害虫防除　～基幹防除～

剤形	散布時期	対象病害虫	薬剤名	使用量10a当り	散布時期の目安	ゆめみづほ出穂予想に応じた散布時期		コシヒカリ出穂予想に応じた散布時期		本剤の使用回数	注意事項（使用時期）
						平坦部	山間部	平坦部	山間部		
粉剤	１回目	いもち病 ウンカ類	ビームトレモンセレンDL粉剤	3 kg	出穂期	7/11 ～ 7/18	7/16 ～ 7/23	7/21 ～ 7/28	7/25 ～ 8/1	３回以内	収穫21日前まで
	２回目	カメムシ類他	ビームスタークル粉剤５DL	3 kg	1回目散布約1週間後	7/18 ～ 7/25	7/23 ～ 7/30	7/28 ～ 8/4	8/1 ～ 8/8	３回以内	収穫７日前まで
	追加	カメムシ類他	スタークル粉剤DL	4 kg	随時					2回以内	収穫７日前まで
粒剤	１回目	いもち病 カメムシ類	イモチエース スタークル粒剤	3 kg	出穂一週間前	7/6 ～ 7/10	7/11 ～ 7/15	7/16 ～ 7/20	7/20 ～ 7/24	３回以内	収穫35日前まで
	２回目	カメムシ類 ウンカ	スタークル粒剤	3 kg	1回目散布約2週間後	7/20 ～ 7/24	7/25 ～ 7/29	7/30 ～ 8/3	8/3 ～ 8/7	３回以内	収穫７日前まで
液剤	１回目	いもち病 カメムシ類 紋枯病	(混用) ①ビームエイトトレボンゾル ②バリダシン液剤5	①100～150L(650倍) ②100～150L(1000倍)	出穂期	7/11 ～ 7/18	7/16 ～ 7/23	7/21 ～ 7/28	7/25 ～ 8/1	３回以内	収穫14日前まで
	２回目	カメムシ類他	ビームエイト スタークルゾル	60～150L(1000倍)	1回目散布約1週間後	7/18 ～ 7/25	7/23 ～ 7/30	7/28 ～ 8/4	8/1 ～ 8/8	３回以内	収穫７日前まで
	追加	カメムシ類他	スタークル液剤10	60～151L(1000倍)	随時						収穫７日前まで
ドローン	１回目	いもち病 カメムシ類 紋枯病	(混用) ①ビームエイトトレボンゾル ②バリダシンエアー	①0.8L(5倍) ②0.8L(8倍)	出穂期	7/11 ～ 7/18	7/16 ～ 7/23	7/21 ～ 7/28	7/25 ～ 8/1	①３回以内 ②5回以内	収穫14日前まで
	２回目	カメムシ類他	スタークル液剤10	0.8L(8倍)	1回目散布約1週間後	7/18 ～ 7/25	7/23 ～ 7/30	7/28 ～ 8/4	8/1 ～ 8/8	３回以内	収穫７日前まで
	追加	カメムシ類他	スタークル液剤10	0.8L(8倍)	随時						収穫７日前まで